

（第6回 御所まち 霜月祭（そうげつさい）開催）

11月14日（日）、第6回霜月祭（主催：霜月祭実行委員会 後援：御所市、御所市商工会など）が近鉄御所駅東側の御所まち一帯で開催された。霜月祭は「ふるさとの誇り、おもてなしのこころ」をコンセプトとして、改めて自分のまちの素晴らしさに気づき、自分のまちへの誇りを呼び戻そうとして霜月祭実行委員会が平成11年から始めているイベント。

御所まちは江戸時代半ばから、大和かすりと売葉で豊かになった歴史があり、趣のある古い町家が点在している。町おこしに古い町家の活用を考案し「町家ミュージアム」を開催。御所の歴史・伝統を知ってもらおうと、町家の玄関先を開放し、その家に伝わる珍しいもの、貴重なものを展示・公開している。

その他、商家の蔵での「蔵シックコンサート」や子供に御所の昔話を聞かせる「おはなしの会」など数々のイベントが行われた。

また、地元の葛城山麓で栽培したそばを使った打ちたての「ごせまち行者そば」が販売されて、沢山の人が食していた。

修験道の開祖えんのおづぬ役小角生誕きっしょうの地といわれる吉祥草寺では、毎年11月第二日曜日に無病息災・家内安全を祈願し、「採燈大護摩供養さいとうだいごまくよう」が行なわれる。この日は、全国から多数の山伏が集い法螺貝を奏でながら町中を練り歩く「山伏お練り」が行なわれることから、霜月祭は、この行事にあわせて開催されている。（上田）



町家を通る山伏お練り

（第16回 「たかとり城まつり 2004」開催）

11月23日、第16回「たかとり城まつり 2004」（主催：高取町観光協会など、後援：高取町など）が高取町内で開催された。たかとり城まつりは「活気のある自慢のできる地域づくり、歴史を大切に資源を活用する」をコンセプトとして、高取町観光協会が中心となり毎年行なわれている。

「たかとり城まつりフリーハイキング」は、町内から、標高583.9mにある高取城址まで、約2時間の道のりを歩くもの。黒門跡から高取城址まで急な坂道が続く。この城は、1332年南朝方に属した越智氏が築城。その後、豊臣秀長の重臣、本多氏によって本格的な近世の山城として整備された。江戸期は、譜代大名の植村氏が1868年の藩籙奉還まで居城した。城内は、約10,000㎡、かつては三層の天守と小天守、27の櫓を擁し、その規模において日本一の山城といわれている。

また、同町の上子島の児童公園では、火縄銃の実演、居合術、天誅組おどりなどのイベントが行なわれた。午後は、和太鼓を先頭にして甲冑、新撰組、狩衣姿の武士などの姿をした時代行列が同町の中心街を練り歩いた。

前日は、「日本三大山城サミット」が高取町で開催された。日本三大山城とは、日本一高い所（標高721m）にある美濃岩村城（岐阜県岩村町）、天守閣が存在する城として一番高い所にある備中松山城（岡山県高梁市）、規模が一番大きい高取城の三つ。今回のサミットでは「自然的資源、歴史的資源、文化的資源である山城を生かしノウハウ交換や地域間交流を継続していく」と宣言した。（上田）



高取の町を練り歩く「時代行列」



高取城の城壁